

日本における大雨の年間発生回数は有意に増加しており、1時間降水量50mmを超える非常に激しい雨の最近10年間(2016~2025年)の平均年間発生回数は、40年前の10年間(1976~1985年)と比べて約1.5倍に増加しています。

現在、気象庁が発表している河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報等は、自治体が発令する避難情報の5段階の警戒レベルとの対応が複雑でわかりにくくなっています。2026年5月下旬からこの点が改善され、新たな防災気象情報が運用されることとなりますので紹介します。

○ 新たな防災気象情報について

気象庁が発表する新たな防災気象情報は、自治体が発令する避難情報の5段階の警戒レベルに対応しており、避難の判断がしやすくなります。例えば、これまでの「大雨警報」は「レベル3大雨警報」という名称になり、レベルの数字と一緒に情報が伝え

られます。自治体から避難指示等が発令されていなくても、気象庁が警戒レベル4や警戒レベル3に相当する防災気象情報を発表した際には、同庁がWebページで提供するキキクル(雨によって引き起こされる災害の危険度の高まりを評価・判断し、提供される危険度分布の予測)等を用いて自ら避難の判断をしてください。避難に当たっては、あらかじめ指定された避難場所へ向かうことにこだわらず、川や崖から少しでも離れた、近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。

新たな防災気象情報の運用に関する詳細は、気象庁のWebページで確認できます。

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownbosai/keiho-update2026/index.html>)



日頃からこうした情報を正しく理解、活用し、一人一人が命を守る行動をとりましょう。

	河川氾濫 1級河川などの 大川川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大川川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとの) 住民がとるべき行動
警戒レベル 5相当(黒)	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
-----<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難!>-----					
警戒レベル 4相当(紫)	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当(赤)	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2相当(黄)	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難 ルート、避難のタイミングなど)
警戒レベル 1相当(白)	早期注意情報				災害への心構えを高める

従来の「洪水警報」と「洪水注意報」は廃止されま
す。



新しい防災気象情報の情報体系とその名称(「防災気象情報の改善について(令和8年2月)」*(国土交通省)を基に愛知県が作成) *<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownbosai/keiho-update2026/index.html>

愛知県気候変動適応センター
(環境調査センター 企画情報部)
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

